

## 『フロントランナー（通信指令員）としての役割～実践～』

|   |                      |                            |
|---|----------------------|----------------------------|
|  | 都道府県名                | 兵庫県                        |
|   | 所 属                  | 西宮市消防局警防部指令課               |
|   | 氏 名                  | 西岡 明人                      |
|  | 職名・階級                | 指令総括第1係長・消防司令              |
|   | 指導救命士養成研修<br>受 講 時 期 | 平成28年度<br>指導救命士養成研修 第2期 修了 |

昨年11月に救急振興財団「指導救命士活躍情報」に『指導救命士による口頭指導教育への取り組み』という内容で寄稿したところ、取り上げられ掲載していただきました。その節は、お世話になりありがとうございました。

その効果が表れたのか、この度、新規異動者として勤務していた通信指令員の適切な口頭指導及び他の通信指令員による万全のフォロー体制によりCPA事案からの社会復帰事例がありましたので参考として紹介したいと思います。

### 【概要】

4月〇日1時07分入電。「主人が倒れている。呼びかけ反応がない。既往はありません。48歳です。」との傷病者の妻からの救急要請でした。

119番通報を受信（1時07分）した通信指令員A（以下「A」という。）は、現場を特定した後すぐさま直近の救急隊を出動（1時09分）させるとともに、慌てる妻を落ち着かせ、傷病者の観察を行わせた結果、傷病者はCPAであると判断しました。その後、妻に口頭指導により胸骨圧迫を指示し、救急隊到着（1時15分）までの約8分間、くじけそうになる妻を励まし続け、粘り強く胸骨圧迫を継続させ、救急隊に引き継ぎました。

この119番通報を隣でモニターしていた通信指令員B（以下「B」という。）は、通報内容からCPAの疑いがあると判断し、すぐさまドクターカーの手配に着手しました。本市のドクターカーの体制は、本市のドクターカーシステム（図1参照）に加えて医療機関が独自で運用するラピッドレスポンスカーが3台あり、非常に恵まれていますが、事案発生時は、コロナ禍でラピッドレスポンスカーは出動不能状態でした。このような状況を踏まえ、本事案は早期医療介入が不可欠と判断したBは、本市のドクターカーシステムの提携医療機関に対し、医師の出動要請を行いました。

同じくこの119番通報をモニターしていた通信指令員C（以下「C」という。）は、

119番通報を受信したAのみでは対応が困難と判断し、出動した救急隊へ無線で指示（1時11分）を行うとともに医師をピックアップする救急隊を選定して出動（1時16分）させました。また、ドクターカー出動した救急隊へ無線で指示を行うなど万全のバックアップ体制を敷きました。

### 【結果】

これら一連の流れを遅滞なく行ったことが、救急隊到着後の処置に大きく関与し、現場での心拍再開、その後の社会復帰に至る経過に大きく寄与したと思われます。

なお、現場で行った医師の二次救命処置及び各救急隊の迅速で有効な活動により救命された事案であるということはいふまでもありません。

一見、通信指令員として当たり前のことを当たり前のように実施しているようですが、119番通報を受信したAは、4月の人事異動で初めて指令課勤務となり、この日が異動してから2当務目の勤務日で、新規異動者研修（配置から2ヶ月間実施）の真ただ中であつたことから、A・B・Cの3名の力を結集し共に助け合いながら行ったこと、また、異動後すぐにAに対して何度も口頭指導シミュレーションなどを行っていたからこそ成し得た結果であつたと思われます。

以上のように、119番通報の受信から、指令課員の口頭指導、バイスタンダーによる切れ目のない胸骨圧迫、現場到着した救急隊の迅速で有効な活動、医師による早期の医療介入というまさしく救命の連鎖により、事案発生から23日後、無事社会復帰に導くことができました。

補足となりますが、上記3名の通信指令員は救急救命士の有資格者ではありません。

（参考）

現場到着した救急隊の行った処置

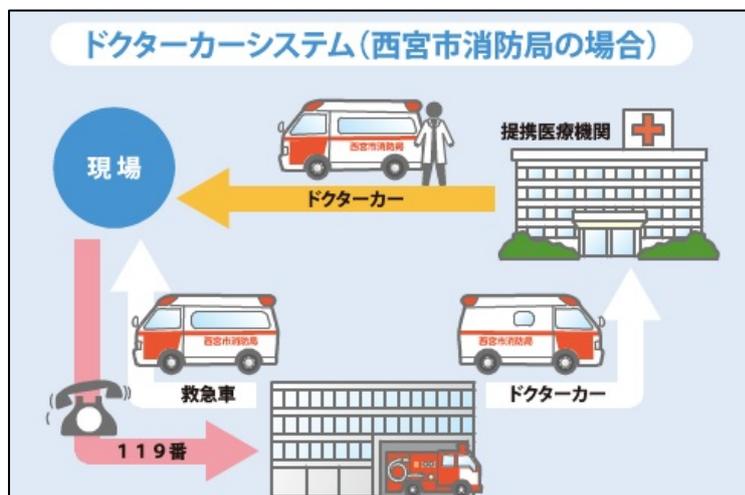
CPR 除細動3回（うち1回は薬剤投与後）、静脈路確保及び薬剤投与  
用手による気道確保 補助換気など

（転帰）病名 心肺停止 重症

退院時 CPC（脳機能カテゴリー）1 機能良好

OPC（全身機能カテゴリー）1 機能良好

（図1）



## 【本事案における職員表彰】

3名の通信指令員（左は警防部長）



救急隊員



### 【特に工夫している点・改善方策等】

通信指令員はフロントランナーであり口頭指導が非常に重要で、救命の連鎖（チェーンオブサバイバルの4つの輪）の効果は均等ではなく、前半部分に傷病者の命を左右するキーポイントがあり、119番通報を受けた通信指令員の判断次第では生死に直結すると言われています。このことを肝に銘じ、更に通信指令員一丸となって救命率向上のため様々なことに取り組んでいきます。

今後も、県認定の指導救命士として先頭に立ち通信指令員の教育に携わりながら一人でも多くの市民の方を救命したいと考えています。

最後になりますが、この投稿が、全国で頑張っておられる指導救命士の皆様へのモチベーションの一助になれば幸いです。